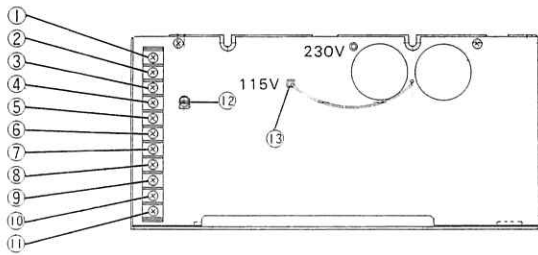


LMC100-1 取扱説明

1. 端子配列・ボリューム



- ① } 入力端子 AC 85~132V | φ 48~440Hz又は
- ② } AC 170~264V | φ 48~440Hz
- ③ 接地端子
- ④ -12V (V4) 出力端子
- ⑤ +12V (V3) 出力端子
- ⑥ +12V (V2) 出力端子
- ⑦ +12V (V2) GND端子
- ⑧ } +5V, V3, V4 GND端子
- ⑨ }
- ⑩ } +5V出力端子
- ⑪ }
- ⑫ 出力電圧可変ボリューム (+5V)
- ⑬ 115/230V切替用コネクタ

2. 機能説明

■2.1 過電流保護

- 全回路、過電流保護回路を内蔵しています。数値については、下表を参照ください。
- 短絡・過電流状態を解除すれば、自動的に復帰します。

出力電圧 [V]	+5	+12 (V2)	+12 (V3)	-12 (V4)
出力電流 [A]	10.0	2.5 (ピーク3.5)	1.2 (ピーク2.0)	0.5
過電流値 [A]	11.0以上	3.8以上	2.2以上	0.6以上

- 過電流状態での使用は、電源の破壊を招く恐れがあります。
- +12V (V3)、-12V (V4)には3端子ICを使用しているため、出力短絡、及び、過電流状態での使用は、素子の破壊を招く恐れがあります。

■2.2 過電圧保護

- +5V出力に定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると過電圧保護回路が動作し、全出力を遮断します。
- 復帰は過電圧の原因を取り除き、AC入力再投入によって行なってください。

■2.3 出力電圧可変

- 出力電圧の可変は+5Vだけ可能で、右回転で高く、左回転で低くなります。ただし、+5Vの可変で+12Vの出力電圧も比例的に変化します。
- 可変範囲は、4.90~5.25Vです。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.4 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々に下げ

てください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

■2.5 ピーク電流

- +12V (V2), +12V (V3)の出力電流はそれぞれ3.5A, 2.0Aのピーク電流(30秒以内)を流すことができますが、平均電流は定格電流以内でご使用ください。

3. AC入力電圧

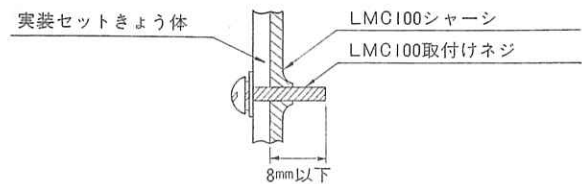
- LMC100は、内部コネクタを切り換えることによって、AC100V系とAC200V系のどちらでも使用することができます。
- コネクタの切り換えを誤ると、出力が出なかったり、電源が破壊することがありますので、AC入力投入時は、コネクタの位置を確認のうえご使用ください。

4. 直列・並列運転

- 本電源同士、若しくは、他電源との直列および並列運転はできません。

5. 取付けネジ

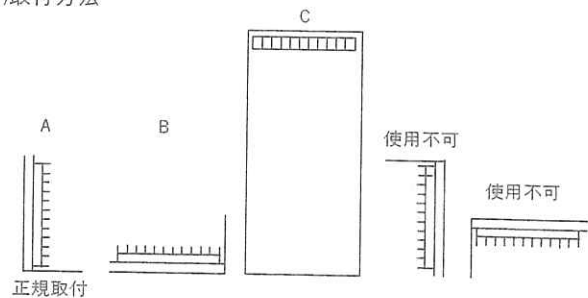
- 電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため下図を守ってください。



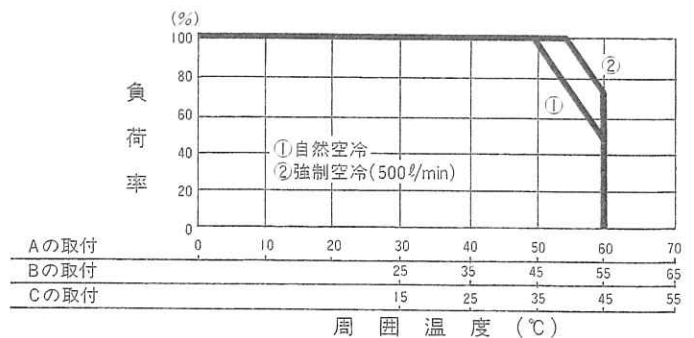
6. 出力ディレーティング

- LMC100を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される場合は、次の要領でご使用ください。

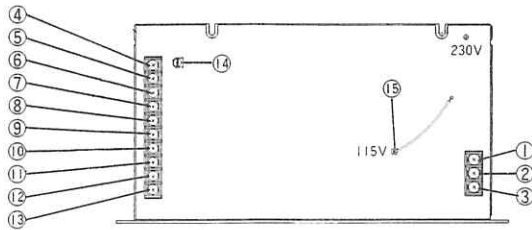
(1)取付方法



(2)ディレーティング表



1. 端子配列・ボリューム



- ① } 入力端子 A C 85~132V | φ 48~440Hz又は
- ② } A C 170~264V | φ 48~440Hz
- ③ 接地端子
- ④ } A C 6.3V 出力端子
- ⑤ }
- ⑥ -12V (V4) 出力端子
- ⑦ +12V (V3) 出力端子
- ⑧ +12V (V2) 出力端子
- ⑨ +12V (V2) GND端子
- ⑩ } +5V, V3, V4 GND端子
- ⑪ }
- ⑫ } +5V 出力端子
- ⑬ }
- ⑭ 出力電圧可変ボリューム(+5V)
- ⑮ 115/230V 切換用コネクタ

2. 機能説明

■2.1 過電流保護

■ +5V, +12V (V2), +12V (V3), -12V (V4) 出力は過電流保護回路を内蔵しています。

数値については下表を参照ください。

■ 短絡・過電流状態を解除すれば、自動的に復帰します。

出力電圧[V]	+5	+12(V2)	+12(V3)	-12(V4)
出力電流[A]	12.0	3.5 (ピーク6.0)	1.2 (ピーク2.0)	1.2 (ピーク1.5)
過電流値[A]	14.0	6.6	2.2	1.7

■ 過電流状態での使用は、電源の破壊を招く恐れがあります。
 ■ +12V (V3)、-12V (V4) には3端子ICを使用しているため、出力短絡、及び、過電流状態での使用は、素子の破壊を招く恐れがあります。

■2.2 過電圧保護

■ +5V 出力に定格電圧の115~140%以上の電圧が出力になると過電圧保護回路が動作し、全出力を遮断します。

■ 復帰は、A C 入力を遮断した後、過電圧の原因を取り除きA C 入力再投入によって行なってください。

■2.3 出力電圧可変

■ 出力電圧の可変は+5V だけ可能で、右回転で高く、左回転で低くなります。ただし、+5Vの可変で+12Vの出力電圧も比例的に変化します。

■ 可変範囲は、4.90~5.25Vです。

■ 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.4 絶縁耐圧

■ 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

■2.5 ピーク電流

■ +12V (V2), +12V (V3), -12V (V4) の出力電流は、それぞれ6.0A, 2.0A, 1.5Aのピーク電流(30秒以内)を流すことができますが、平均電流は定格電流以内でご使用ください。

■2.6 AC6.3V 出力

■ A C 200V系でA C 6.3V 出力を停電検出などに用いるときは、波形が歪んでいるため注意してご使用ください。

3. AC入力電圧

■ LMC135は、内部コネクタを切り換えることによって、AC100V系とAC200V系のどちらでも使用することができます。

■ コネクタの切り換えを誤ると、出力が出なかったり、電源が破壊することがありますので、A C 入力投入時は、コネクタの位置を確認のうえご使用ください。

4. 直列・並列運転

■ 本電源同士、若しくは、他電源との直列および並列運転はできません。

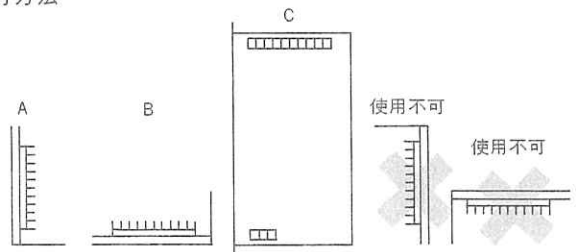
5. 取付けネジ

■ 電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため、取付けネジの電源内に入る長さは8mm以下にしてください。

6. 出力ディレーティング

■ LMC135を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは、次の要領でご使用ください。

(1)取付方法



(2)ディレーティング表

